

育てられる機会が減少し、そのことが子育てにおける様々な問題を生み出している。そうした中で、我々は、学校教育の家庭科特に保育分野が、育てられる時代に育てることを学ぶ場となることに注目した。本研究の目的は、家庭科の保育教育の推進と内容充実のために、保護者養成の保育との接点を考え、保育者養成段階におけるプログラムを再考することである。

本年度は、①家庭科における保育教育の現地調

査、②保育所・幼稚園保育者の意識調査を計画していたが、諸般の事情で実地に至らなかった。そのため、今後の調査にむけての基礎作業として2004～2009年度に本学で行われた、関連シンポジウムの報告冊子『家庭科の保育と保護者育成の保育をつなぐシンポジウムの記録』の作成を行った。冊子を、今後補足修正し、出版する。そのプロセスを通じて、この問題の探求を進めていきたい。

学生のメンタルヘルスに関する研究（その2） ～教員と職員の共通理解と連携に向けて～

子ども学科 市川奈緒子
発達臨床学科 尾久 裕紀
発達・教育相談室 五十嵐元子
実習指導センター 河合 高鋭
学生相談室 小野久美子
子ども学研究科 無藤 隆

2010年度の助成研究（学生のメンタルヘルスに関する研究）で、本学の四大・短大の教員のうち許可を得られた36名の教員にインタビューをおこない、最近の本学の学生のメンタル面・学習面で気になる実態とその支援について調査した。その結果、精神疾患や発達障害を有する学生、ならびにその周辺に位置すると推測される学生は無視できない数で存在すること、そのことが一部の教員の中では自明のこととされていながら、大学全体で共通理解されていないこと、その対応や支援はその教員の意識と専門性にかなりの部分委ねられており、よい支援がおこなわれていながら、その実態やノウハウが共有されていないことが明らかとなった。

そこで本研究では、そうした「気になる学生」をどのように学内で理解し対応していくのかといったことを、教員職員ともに共通理解すること

を目指した。具体的には、教職員向けの学生対応についての冊子を作ることを目的にした。他大学におけるその類いの冊子を取り寄せて研究したのち、昨年度はインタビューの対象となっていなかった、学生対応事務部門のスタッフへのインタビューもおこなった。12月には、発達障害を持つ学生への支援を先進的におこなっている富山大学を視察に訪れた。他大学に関する研究・調査で理解できたことは、どの大学においても発達障害や精神疾患のある学生に対しては、問題意識を持っており、対策に乗り出していること、しかし、その目的ややり方は、大学の規模や学生のタイプ、教員の意識等によって、非常にさまざまであることである。

完成した冊子は、1月の教授会後の懇談会の中で配布し、それをもって教職員向けの勉強会とさせていただいた。このことが、本学の学生への実

際的な支援体制の充実につながり、よりユニバーサルなキャンパスへと進歩していけるように、今

後も研究と実践を続けていきたいと考えている。

英国における世代間交流の実践 ーロンドン、マンチェスター、北アイルランドを中心にー

家族・地域支援学科 草野 篤子
教育・福祉研究センター嘱託研究員 伊藤 わらび

はじめに

ここ十数年、英国における世代間交流実践はめざましい発展をとげている。その背景に BETH JOHNSON FOUNDATION（以下 BJF）の取り組みがあると言える。「人々が上手に年をとることができる社会を作り上げる」ことを目的として活動している BJF は、地方自治体、政府部局、コミュニティ・グループなど様々な組織と協働して活動を進めている。そして 2001 年に BJF の指導の下に、The Centre for Intergenerational Practices（CIP）を設立し、英国中の世代間交流実践の発展を支援している。このような背景をもつ英国内の世代間交流の実践について 2012 年 3 月 19 日～26 日の間、ロンドンとマンチェスターの世代間交流団体や行政を中心に訪問し、担当者から取材し、また実際の活動に参加することができた。

1. ロンドンにおける世代間交流

(1) Magic Me による世代間交流実践

Magic Me は、ロンドン東部のピクトリア・パークスクウェアの前に建つ緑のドアを持つ建物である。1992 年に設立され、芸術大学を卒業したスーザン・ランフォードさんが現在責任者を務めている。5 名の専従スタッフはそれぞれの専門を生かしユニークな活動を展開している。スーザンさんはグラフィックデザイン、デイビットさんは音楽、シャロットさんはアート（art）とプログラム責任者、クリアさんは

コミュニティとコミュニケーションの責任者である。この他、7 名の役員、2 名の連携者、自由契約の芸術家 27 名、専門家としての協力者（含団体）7 名の他に多くの教師、活動のオーガナイザー、活動を発展させるワーカー達や多くの活動を共にしている人々、若い学生、グループ、ボランティア団体、金銭的支援者への謝辞が 2010 年 4 月 1 日～2011 年 3 月 31 日の年報に記述されている。また、この期間に亡くなった高齢の参加者男女計 9 名の氏名が “We Remember” として記されている。

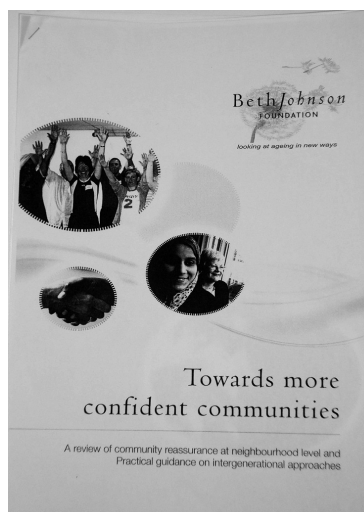


写真1 ベス・ジョンソン財団が発行している世代間交流実践のガイドブック

Magic Me はベス・ジョンソン財団の 12 の評議会メンバーの一員である。スーザンさんは長年の世代間交流実践における開拓的な事業が